

旅
物
語

柳川

ゆ
っ
ら
く
っ
と
ゆ
っ
ら
く
っ
と
ゆ
っ
ら
く
っ
と



おいでませ、水郷柳川。

まずは

季節を愛でる

川下りへと

煉瓦造りの壁を水面に映す「並倉」。国の登録有形文化財の老舗味噌蔵の建造物です。「三柱神社」・鋤崎土居・瀬高水門から並倉や日吉神社を通り、名勝・立花氏庭園・終点の沖端へ、掘割沿いの木々の間に、歴史と暮らしを感じる風景が移り変わっていく川下りコースです。
平成27年3月には「国指定名勝水郷柳川」として指定を受けました。

柳の新芽輝く春 水面きらめく夏 紅葉の彩り映す秋 そして、冬のこたつ舟

たちが、竿ひとつで、ゆつら〜と舟を進めていきます。

暮らしから生まれた川下り

月が出るのを待って、どんこ舟に乗って宴を楽しんだり、どんこ舟競争をしたりと、郷土の記録に残るその暮らしの中の遊びが「川下り」となったのには、訳があります。柳川は詩聖、北原白秋の故郷。その少年時代を描いた柳川出身

の小説家、長谷健原作の『からたちの花』が映画となり、昭和29年にロケが行われました。柳川の風景

が全国のスクリーンに映し出されたことから、「あの舟遊びを」との声が数多く寄せられたのです。やがて、地元は「念発起し、もてなしとしての「川下り」が始まりました。

木陰さす掘割沿いは、桜や菖蒲、紅葉と四季折々に彩られ、狭い水門をくぐったり、船頭さんの歌に耳を傾けたり。時には白秋の童謡が、道行く人のもとへも風によって運ばれてきます。

待ちぼうけ

待ちぼうけ

ある日せせと野良稼ぎ

そこに兔がとんで出て

ころりころげた木のねつゝ

再びきこえてくる水音に、思わず時間を忘れる川下りです。

掘割の水が大変汚れた時代がありました。昭和50年代より、地元の人びとの懸命な努力が積み重ねられ、今の風景があります。その物語は、宮崎駿製作、故高畑勲監督、脚本のドキュメンタリー映画「柳川掘割物語」となりました。この掘割の水は広大な柳川の農地を潤しながら市内を縦横に走り、有明海へとつながっています。



予約なしでも乗船できるのがうれしいところ。コースは約70分。予約をすれば、舟の上で、郷土料理の鰻の蒸籠蒸しやお酒など、宴も楽しむことができます。夜の下りも楽しめます。



川下りの終着点にほど近い、
「柳川藩主立花邸御花」。

元文3年(1738)、柳川藩
五代藩主、立花貞俣公ただよしが柳川城
の南西隅に、二の丸から建物を移
築します。政務を司る本丸御殿
とは別に建てられた別邸御花島。

これが、今の御花であり、庭ととも
に「立花氏庭園」として、国の名
勝に指定された空間です。

100畳の大広間の開け放た
れた窓が切り取る黒松の緑。

座敷から眺める鑑賞式の庭園
「松濤園」は、約280本の黒松しょうとうえん

に1500個の庭石、石灯籠14
基が配され、2つの島と多数の岩
島が浮かぶ水面は、冬には飛来す
る野鴨が群れ遊びます。

藩主一族の暮らしを今に

元和6年(1620)から明治
4年(1871)の永きに渡り、こ

の地を治めた立花家。

「立花家史料館」には、歴代藩
主の甲冑に、華やかな婚礼調度や
夫人の装束・装身具、そして藩主
愛用の茶道具、能面・能装束な
ど、立花家の歴史を彩る大名道
具の数々が飾られています。

中でも、江戸中期より受け継が
れる代々の雛人形とその調度の
数々は、本物と変わらぬ繊細な細
工と種類の多さに感嘆の声があ
ります。それらを使って遊んでいた
歴代のお姫様の暮らしに思いを馳
せる、楽しみ多い史料館です。

雛人形のお道具のなんと細やかなこと。
受け継がれる建築と庭。

ここは、暮らしを愛おしんだ
立花家の別邸でした。



1



2



3

1 初代柳川藩主、立花宗茂
公肖像／2 立花宗茂公所
用「金地三日月軍扇」／
3 江戸時代後期の有職雛
と雛調度／4 立花家史料
館／5 立花宗茂公着用の
甲冑「伊子札縫延栗色革
包仏丸胴具足」／6 明治
43年(1910)に迎賓館
として建てられた西洋館



3



5



6

大名文化と
藩主の思いにふれる空間。

名勝・ 立花氏庭園 美の系譜

「名勝・立花氏庭園」は、
7000坪にもおよぶ国の名
勝です。「柳川・御花」の西側に
ある庭園「松壽園」と立花邸が
昭和53年に国の名勝に指定され
た後平成23年に敷地全体の規
模で追加指定されました。

女の子が生まれた最初の年のお祝い「初節句」に、子どもの無事な成長を願ってひな人形を飾るひなまつり。柳川では、さらにそのひな壇のまわりに、色とりどりの「さげもん」を飾る慣わしがありますが、それを訪れた人びとも見て楽しんでからおうというのが「さげもんめぐり」の始まりです。

女性としての美しさ、強さ、誇りなどを身に付けて欲しいという親心が、その飾りひとつひとつに込められています。

毎年、多くの方がおいでですまつりです

毎年、2月11日から4月3日の間、「おひな様始祭」に始まり、もてなしの心にあふれた「恵美須ひな小路」などもありつつ、まちは「さげもん」で彩られます。

雅な衣装に身を包んだかわいらしい稚児たちが、舟で繰り出す「おひな様水上パレード」は、さげもんめぐりの見所のひとつ。祝いの風景あふるる、柳川の春です。

ひと針、ひと針、思いをこめた飾り。

家々のさげもんを見て歩く楽しさが、いつしか柳川の春の風物詩となりました。

春を告げる

さげもんめぐり



さげもんは、布細工ものと柳川まつりを交互に7列7個の49個をつるします。人生50年と言われた時代に女性は「歩引いて49年と配慮した意味を含ませ、さらに中央に大きな柳川まり2連を加えて計51個とする事により、人生50年よりも長生きできるように願いをかけました。元々は奥女中の暗み教養のひとつとして、お姫様か生まれると琴爪入れなどを使う袋物を健やかな成長を願ひ纏い贈ったのがはじまり。やがて吊るし離へと姿を変え、柳川まりともにも伝承されてきました。



子どもたちも楽しみにしている「おひな様水上パレード」の風景。お稚児さんに乗せた十数艘の舟が、掘割をゆづりつと進んで行きます。





三柱神社や柳川城址の桜に弁天の桜
並木、毎年15万人以上が訪れる中山の
大藤。干拓地を黄色に染める夏の両開
のひまわり園に掘割の水面に映る秋の
紅葉と、柳川の四季は色あい豊かです。

花の色 まつりの音

桜に藤色、おひさま色、
さげもんの赤。
水天宮の子ども囃子、
どろつくどんの銅鑼の音。

そして、柳川は、今も数百の神社仏閣
があり、風流や祇園祭りといった、集落
が受け継ぐまつりが多いまちです。水天宮
や、おにぎえの囃子の太鼓や笛の音、どん
こ舟の上で聞く白秋祭の花火の轟音。
五感に響く、柳川の花とまつりです。





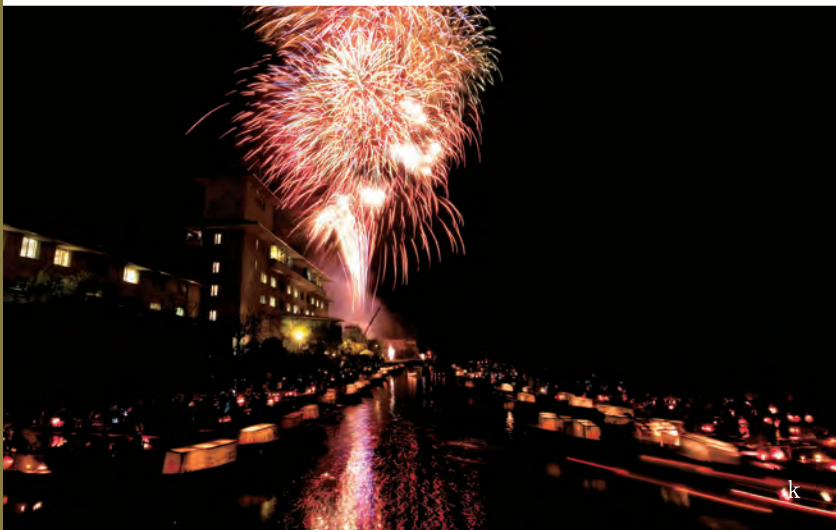
- 柳川雛祭りさげもんめぐり／2月11日～4月3日 a
 流し雛祭／4月3日
 桜まつり・流鏑馬(三柱神社)／3月下旬～4月上旬 b
 くもで綱ムツかけ体験／4月～10月 c
 中山大藤まつり／4月中旬～下旬 d
 沖端水天宮祭 舟舞台／5月3日～5日 e
 花しょうぶ／5月下旬～6月上旬 f
 うなぎ供養祭／7月中旬
 灯り舟／7月中旬～9月下旬
 中島祇園祭／7月第4土曜日 g
 柳川ひまわり園／7月中旬～8月上旬 h
 水郷柳川夏の水まつり「スイー水！すい！」／8月上旬 i
 檀一雄文学顕彰祭／9月下旬
 三柱神社秋季大祭・おぎぎえ(どろつくどん)／10月上旬 j
 風流／10月上旬
 菊の節句／10月中旬
 安東省菴顕彰祭／10月下旬ごろ
 白秋祭水上パレード／11月1日～3日 k
 山王菊花展／11月上旬
 柳川よかもんまつり／11月下旬
 こたつ舟／12月～2月末
 長谷健とうふ祭り／12月上旬
 白秋生誕祭／1月25日
 日吉神社節分祭／2月初旬 l
 田中吉政公顕彰祭／2月中旬
 城堀の水落ち／2月中旬～下旬 m
 梅の木街道／2月下旬
 お堀開き／3月1日

冬

秋

夏

春



柳川は、我が詩歌の母體——
詩聖、北原白秋が生まれ育つたまちです。

白秋が 愛した柳川

北原白秋(本名隆吉)は、時代を超え人びとの心に残る作品を数多く残した詩人であり、童謡作家であり、歌人です。

明治18年(1885)、酒造業を営む北原家に生まれた白秋は、「トンカジョン(大きな坊ちゃん)」と呼ばれ、6人の平家落人が港を開いたという「六騎伝説」が語り継がれる沖端で華やかな少年時代を過ごしました。有明海を通じて行き交うものと人。生命力と天性の明るさに富んだ作風は、このまちそのものでした。

しかし白秋が16歳の時、大火で酒蔵が全焼し、家は傾きます。傷心の白秋は没頭していた詩歌の創作へとさらにのめりこ



み、やがて家出同然で上京。与謝野鉄幹、石川啄木といった才能とも交流しながら、26歳の時に書き上げた処女詩集『邪宗門』の耽美的な表現で賞賛をあびます。その2年後に出した詩集『思ひ出』は、故郷柳川と破産した実家に捧げる懐旧の情で、白秋の名を世に知らしめました。57年の生涯で2万点以上の作品を残した白秋。山田耕筰との『からたちの花』などは日本の心ともいえる童謡の傑作です。

白秋がずっと抱いていた、帰りたくても帰れない故郷柳川への思い。されど、昭和3年、20年ぶりの帰郷を柳川の人びとは熱狂的に迎えたのです。

この生家は、焼け残った母屋を保存活動によって復元したもので、記念館とあわせ、その激動の人生と人間像に迫る展示は心を揺さぶります。絶筆となった『水の構図』に、「柳河は我が詩歌の母體」と遺した白秋。柳川を愛してやまなかった、その思いにふれる沖端界隈の散歩道です。

● 北原白秋生家・記念館

柳川市沖端町55番地1

☎ 0944-72-6773

開館時間／午前9時～午後5時 休館日／12月30日～1月1日 観覧料／大人600円 高校生・大学生450円、小・中学生250円

300年前と変わらぬ 旧街道と旧小路 そぞろ歩き

「柳川の道は、300年前の江戸時代の地図を見ても歩ける」と言われるほど昔のままの道が残るまち。辻町は、田中道（久留米柳川往還）、三池街道といった多くの道の起点となっていました。敵の侵入を防ぐために柵形（直角）に曲がった道や道標となる追分おきわけの碑は、その名残です。

そして、武士や町人などが暮らす地域を通りごとに「小路こうじ」と呼んでいました。「江戸小路」や「隠居小路」、「北長柄小路」など、今も通称として残り、当時の暮らしの物語が潜んでいます。「旧戸島家住宅」のような武家屋敷も受け継がれ、城下町の風情感じるまち並みを、地図を片手にそぞろ歩いてみてはいかがでしょう。

● 旧戸島家住宅

柳川市鬼童町49番地3
☎ 0944・73・9587
開館時間／午前9時～午後5時 休館日／毎週火曜日・年末年始 観覧料／一般（小学生以上）100円（白秋生家入館者は無料）、抹茶とお菓子は有料

柳川市役所南、掘割沿いの坂本小路で銀杏を集める子どもたち。この道は、「日本の道百選」に選ばれた道で、春は桜、秋は美しい紅葉が小路を彩ります。



江戸小路を抜けて大通りへ出ると、柳川藩中老・吉田兼儒の隠居後の住まいとして建てられた「旧戸島家住宅」に出会えます。数寄屋風の意匠を持つ葦葺屋根の建物で、文政11年（1828）築と伝えられ、掘割から水を引き入れた池を持つ国の名勝庭園とともに、趣のある空間です。内部には、江戸時代の流行が随所にとり入れられ、李白の漢詩「獨酌」が彫られた杉戸など、文人趣味の意匠が多くみられます。地元の方々の抹茶のもとがある期間があり、先人たちが語り合った座敷でいただく一服のお茶は、格別なものがあります。



有明海に広がる海苔養殖場。中でも最も美味とされるのが、11月に初めて水揚げされる「初摘み」。地元海苔漁師たちが「花（端）海苔」という名のごとく、漆黒の艶があつて口溶けがよく、旨味と甘み広がる海苔です。

本頁の干拓地、海苔養殖場の航空写真は橋本文夫撮影（新柳川明証園会所取）



魚鱗状に広がる干拓地の麦秋の風景。柳川は、米、麦や大豆、茄子、アスパラなどの野菜、イチゴのあまおう、巨峰などのフルーツと、いずれも県内有数の産地です。



海と農 食べめせ柳川

干拓の風景は先人の叡智。
有明の幸ある柳川には、
九州屈指の魚市場もあり。

沖に見えるのは、海苔養殖場の風景。海と太陽の恵みを受け、美味しい海苔が育つのです。

最大6メートルという日本一の干満差がある有明海は、干潮になると広大な干潟が現れます。

中世より、この湿地に水路網を巡らせてつ利用してきた先人たちが。江戸時代になると、柳川城主であった田中吉政が32キロメートルにわたる「慶長本土居」を築き、機械もない時代に、干拓事業で広大な耕地を得ます。今の柳川の風景は、1000年以上にわたる、先人の生きてきた証です。

この干満差と、矢部川から流れ込む豊かな栄養分によって実に多くの種類の魚介類が生息する有明海は、「宝の海」とよばれます。



有明海の幸は、かたちも味わいも独特。「ムツゴロウ」、「タイラギ貝」、「メカジヤ（写真上右）」、「ワケノシンス」、「クツノコ（写真上左）」など、柳川にはその珍しい魚介の数を堪能する、伝統の食文化が受け継がれています。筑紫町の筑後中部魚市場は、魚種、取扱量ともに九州屈指を誇る魚市場。夜明け前か、競りの威勢のいい声が響き渡ります。



柳川の代表的な郷土料理のひとつである「鰻の蒸籠蒸し」。焼き上がった鰻を、甘いタレをからめたご飯の上にのせ、蒸します。代々受け継いできた秘伝の製法により、店ごとに味わいが違います。20軒を超える鰻屋が腕を競い合う鰻の蒸籠蒸し。お好みの一軒を見つけてみるのは、いかがでしょうか。



夕日に照らされるくもで網。伝統的な漁法で、満ち潮にのってきた魚を大きな網でおろしすくいとります。干潟も海も染め上げる有明海の夕日は忘れえぬ風景です。くもで網の体験も可能です。
1時間 三千円
期間（4月～10月）
問合せ先
柳川むつろう会
0944-72-0819



ささがきゴボウを敷いた土鍋に、どじょうを丸ごと入れ、鶏卵でとじた「柳川鍋」。栄養価が高いどじょうには、体を温め生気を増す働きがあると言われていいます。



中島朝市は訪れるなら朝クレート持参がおすすめです。

有明の幸に鰻の蒸籠蒸し

柳川といえば、「鰻の蒸籠蒸し」。各店秘伝の味わいは、何度訪れても楽しませてくれる郷土の味です。そして、柳川のまちを歩くと気づく魚屋の多さは、九州屈指の魚市場「筑後中部魚市場」があり、毎朝、全国から集まった新鮮な海の幸が競り落とされているゆえ。ワケノシンス（イソギンチャク、若いもの尻の穴の意味）にメカジヤ（ミドリシヤミセンガイ）、ムツゴロウなど、名前も形も珍しい有明の幸の数々は、その物語や食べ方に耳を傾ければ、忘れ得ぬ味わいとなります。

アジアを感じる中島朝市

そんな柳川らしい食のお買い物なら、大和町に江戸時代から続く「中島朝市」へ。毎朝、新鮮な海産物や野菜、お惣菜がずらりと並び、「寄らんかんも〜」、「安かばんも〜」とびかう柳川弁。アジアの熱気を感じる市場です。



柳川まり
菊や椿、花しょうぶなど華やかな模様をもつ柳川まり。ひとつひとつ糸を手で巻いてつくる芸術品です。

柳川凧
正月の縁起物とされる民芸品。日本の昔話の主人公、坂田金時(金太郎)がモチーフです。

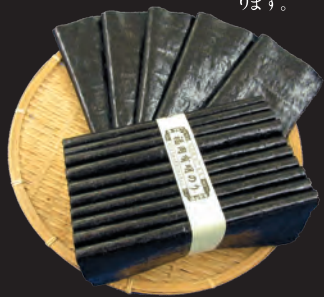
花ござ
柳川では畳表・花ござなどの草製品がつくられています。中でも、「掛川織」は、繊細な模様と鮮やかな色あいで、福岡県特産工芸品に指定されています。



さげもん
柳川には、昔から女の子が生まれた初節句に、子どもの無事な成長を願って、「さげもん」を飾る慣わしがあります。一吊りし51個を、女性たちがひとつひとつ縫い上げる芸術品です。



柳川と相撲
柳川は第10代横綱、雲龍久吉(うんりゅうひさきち)の故郷。酒や味噌など、相撲にまつわるお土産があります。



海苔
豊穡の有明海で育った海苔の美味しさは格別です。中でも「初摘み」は、質が高く、口溶けの良い海苔です。



神棚
家に神道の神札をまつための神社を模した棚。柳川には、数少ない神棚職人が残っています。

柳川のお土産は、色とりどりです。手づくりであるのがうれしいところ。お茶文化がさかんなことから、和菓子や昔ながらのお煎餅、洋菓子などの甘味もたくさんあり、酒や味噌、醤油といった老舗蔵の醗酵食品も揃うのが柳川。お気に入りの土産を見つけてみてください。

伝統の手技あり 味わい深し 物語ある お土産 あるばんも

柳川の特産品で、新たなお土産をと始まった「食べめせ柳川」。その取り組みから生まれた特産品や、柳川ブランドの認定品も人気です。



醤油づくり体験 / 森山醸造食品(有)
☎ 0944-72-2716

通年型体験プログラム案内



ゆるり旅ホームページ

思い出をお土産に 体験プログラム

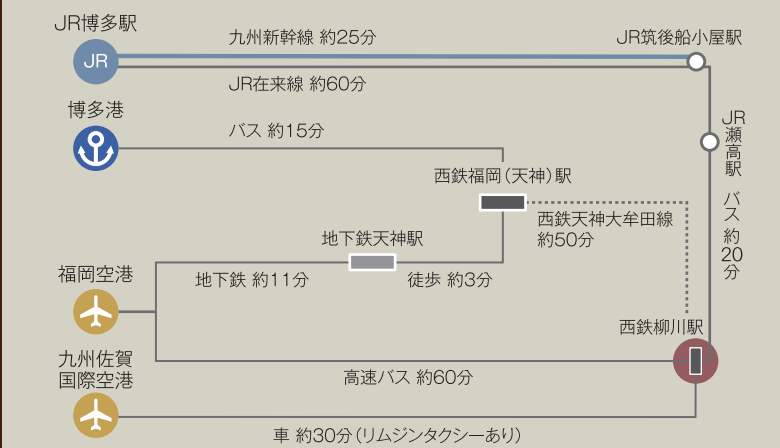
柳川には、ブランドづくりから生まれた、いろんな体験ができるプログラムやツアーがあります。思い出も、ぜひ旅のお土産に。詳しくは各窓口にお問い合わせください。



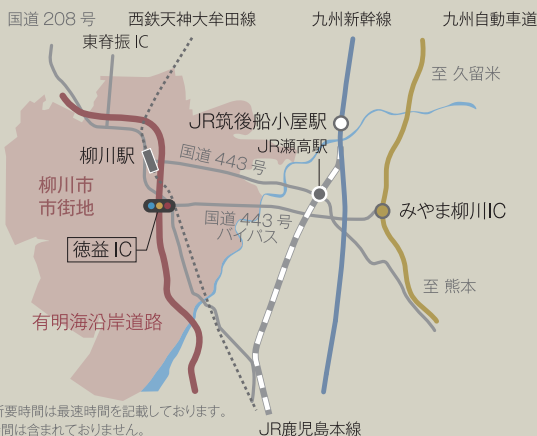
板海苔づくり体験 / 株式会社高橋商店
☎ 0944-73-6271

おいでめせ柳川

西鉄天神大牟田線で
福岡(天神)駅から、約50分。



柳川市街地まで、みやま柳川インターから約20分、
東春振インターから約40分。



○各区間の所要時間は最速時間を記載しております。
乗り継ぎ時間は含まれておりません。

※掲載情報は2020年6月現在

川下り

ふらりと来ても
予約なしでご乗船できます。
雨の日もまた風情あり。

柳川観光開発(株)
☎ 0944-72-6177
(株)大東エンタープライズ
☎ 0944-72-7900
水郷柳川観光(株)
☎ 0944-73-4343
(有)城門観光
☎ 0944-72-8647

乗船場/西鉄柳川駅から徒歩5~10分 (P.6のMAP参照)
料金/乗合船(中学生以上1500~1650円/子ども800~830円)
営業時間/午前9時~
(所要時間 約70分)

以下は、ご予約ください。

- 夜の川下り
- うなぎの蒸籠蒸し、お酒など、お食事の手配



柳川の宿 と温泉

ゆつら〜つと温泉、そして宿泊。

- 旅館・ホテル
柳川藩主立花邸 御花
柳川市新外町1 ☎ 0944-73-2189
白柳荘
柳川市新町16 ☎ 0944-73-1188
若力旅館
柳川市三橋町高畑327 ☎ 0944-72-2009
さいふや旅館
柳川市椿原町45 ☎ 0944-72-2424
柳川ビジネスホテル
柳川市三橋町高畑243-1 ☎ 0944-74-1500
松葉屋(ビジネスホテルやまと)
柳川市大和町中島673 ☎ 0944-76-3212
ホテルニューガイア柳川
柳川市三橋町下百町1-14 ☎ 0944-75-1705
ホテルルートイン柳川駅前
柳川市三橋町下百町210-10 ☎ 0944-75-1551
柳川ゲストハウスほりわり
柳川市沖端町7 ☎ 0944-85-8987
hatago
柳川市京町62-1 ☎ 0944-32-8105
- 天然温泉の宿
かんぼの宿 柳川(立寄湯あり)
柳川市弥二郎町10-1 ☎ 0944-72-6295
*東隣に「からたち文人の足湯」(無料)があります。
柳川温泉ホテル 輝泉荘(立寄湯あり)
柳川市三橋町柳河874 ☎ 0944-73-3182
- 天然温泉
柳川総合保健福祉センター「水の郷」
柳川温泉 南風(はえんかぜ)
柳川市上宮永町6-3 ☎ 0944-75-6205



柳川市産業経済部観光課

〒832-8601 福岡県柳川市本町87番地1
TEL 0944-73-8111 / FAX 0944-73-2516
URL <https://www.city.yanagawa.fukuoka.jp/>



柳川市観光案内所

〒832-0065 福岡県柳川市沖端町35番地
TEL 0944-74-0891 / FAX 0944-72-9013
URL <http://www.yanagawa-net.com/>

